

第2回 野洲市都市経営審議会 結果報告

1. 開催日時等

平成30年7月19日（木）午後2時00分～午後4時00分

於：野洲市役所3階 第1委員会室

2. 委員等

＜出席委員（7名中7名）＞

50音順

1号委員（学識経験者）

石井 良一 委員 中辻 摩耶 委員

新川 達郎 委員 西川 照美 委員

2号委員（関係団体を代表する者）

政本 幸三 委員

3号委員（市長が認める者）

久保 朋子 委員 津留崎 親 委員

＜傍聴者＞

3名

3. 議事等

1) 公共施設のあり方について（○委員、●行政）

○4期で15.5%の延床面積削減を目指すならば、1期で3.875%削減が必要ではないか。積み残しても2,3,4期に削減できる目処は立ちにくく、1期では3.875%を達成するシナリオにしておかないといけないのではないか。

→●目標はあるが、小学校等削減できない施設も多く、面積を減らすのは現実的に厳しい。2期以降は、単純に面積を減らすのではなく、維持管理費等別のところに切り替えて考えていかないとけない。

○資料1 P6で文化施設は3施設集約化で面積削減となっているが、3つつぶして新しいのを建てる考えか。

→●文化施設の集約化は文化ホール相当の面積、シルバーワークプラザの集約化はやす相当の面積を残して計算している。現施設を維持するのか、新たに作るのかは未定である。

○1期で老朽化した市営住宅を廃止する方向で検討した方がいいのではないか。市営住宅はかなりの面積を占めており、2期・3期も見越して方針を出す方が望ましい。

○市営住宅を減らすと言っても、実際住んでいる人がいると減らすのは難しい。市営住宅はどれくらい埋まっているのか。

→●市営住宅については既に長寿命化計画を策定しており、老朽化している永原第2団地は2期中に建替えをして1棟減らす計画である。老朽化している22戸は募集をかけておらず、市営住宅全体では平成29年度末で309戸中263戸入居している。災害時の一時入居等、市営住宅は政策的に一定数開けておく必要があり、概ね満室である。

○公共施設を集約するのはいいと思うが、いざ災害の場合に避難所が足りなくなるのでは困る。野洲市の人口からして避難所としての公共施設は十分か。それが基本になるのではという気がする。

→●災害時の避難所は小学校がメインになり、コミセンも各学区に設置してある。人口の多いところは比例して公共施設も多くある。避難所としての必要面積は、どのような災害が起こるかによっても変わってくるので、確実な把握は難しいが、明らかに不足しているという認識はない。

○第1期の施設整備で不足する財源は、不要施設の売却等で対応するとのことだが、物価上昇等の推移は見込んでいるのか。確実に売却しないと次の経費が生まれないが、売却は簡単ではないと思う。

○資料1 P8の経費見込みの26億円には市民病院、交流/商業施設が入っていないが、大規模修繕に係る費用のみとなるのか。

→●余熱利用施設の整備費と大規模修繕の費用となる。

○広域での相互利用とはどんなことをしているのか。今後検討する共同運営とはどういうものか。

→●図書館は湖南4市で相互利用しており、他市の図書館も利用できるようになっている。文化施設・体育施設については、他市の方でも市内料金で借りられるようにしている。共同運営とは、いくつかのまちで施設を共同で持つというものであり、現在施設を持たないまちなら選択肢になると思うが、野洲市においては長期的な視点での話になる。

○老人憩の家の譲渡または解体について、自治会には了承をもらっているのか。

→●自治会とはこれから協議予定である。利用されているところは譲渡となり、今でも維持管理は自治会がしていることから大きく変わることはない。

○老人憩の家は今でも経費がかかっていないということだが、譲渡や解体によるメリットはあるのか。

→●市の施設である限り何らかの対応が必要な状況は出てくるため、経費的なメリットはある。

○文化ホールの利用実績は年間70日しかないのか。残り約300日は利用されていないのか。

→●本番の日数のみカウントしており、リハーサルや準備に係る日数は入っていない。

→○よほど大きい興行なら別日にリハーサルをされるが、それ以外は当日である。年間利用日に大きな変化はないと思う。

○収支で見ると、文化施設全体では約1億の支出に対し収入は3,000万しかない。7,000万の税金を払っても市民が維持したいと思うのかの議論が必要ではないか。隣の守山には1,300席のホールがあり、大きな興行はそちらで可能である。

○文化ホールは駅に近いのだから、もっと営業努力をしないといけない。しかし、設備が古くて要望に添えない部分もあると思う。

→○守山市民ホールは駅から遠いが、多くの利用がある。見たいものがあれば、どこでもファンは足を運ぶ。駅から近いことは余り関係ないのではないか。

○文化施設の利用者の市内の割合は分かるのか。

→●所管課に確認したが、データを取るのには難しく取れていない。

○文化ホールでの文化芸術祭は市民が普段立てない大きなステージに立って発表でき、市民のためになっている。

○それぞれのホールに特徴がある。小劇場は使いやすく利用率が高いが、大きな興行はできない。どれを残すかは難しい議論だが、市民利用を念頭において必要な施設を考えていかないといけない。

2) 経営改善方針について (○委員、●行政)

○基本指針に対して指針が1つだったり4つだったりしてバランスが悪く分かりにくい。

○政策形成の推進に関し、方策としては行政が行うことばかりになっている。本文にあるような、市民や地域団体等のアイデアを取り入れて新しい都市経営ができるような方策を取り入れるべきではないか。

○基本指針2の経営資源の質の向上に関し、資源は人、資産、財源等いろいろあるが、主な方策は業務改善であり、人にばかり着目している。指針6の公有資産の適正管理も経営資源の質的向上の一種であり、基本指針2に含めることもできる。基本指針2で何を進めるかの整理が必要ではないか。

○過去の経験から言うと、人事評価は揉めがちである。何の数字を持ってくるかや評価する人によって評価が変わってしまう。システム的に行わないといけない。

○職員提案制度は最初はよく提案が出るが、だんだん出すことが無くなってくると、出すこと自体が目的になってしまい中身がなくなりがちである。

○経営改善も大切だが、例えば公共施設の廃止等にあたっては、市民感情も大切にしながら進めてほしい。

○PDCAがきちんと回るようなシステムや体制整備をどうするかを考えないといけない。方針なので良いことが書いてあるが、実際に進めていくのは大変だと思う。

3) その他

- ・次回は9月19日(水)午後を開催する。